

## 鉞組とヤマダイインフラテクノス

従業員の健康管理を経営的な視点で捉え、持続可能な企業を目指す「健康経営」が注目を集める。社員のウェルビーイングを高めることが、企業価値の向上につながると「健康経営」に本腰を入れるところが増えてきた。経済産業省が創設した日本健康会議は、こうした取り組みを積極的に行う企業を「健康経営優良法人」として毎年認定する。今年の優良法人が先日発表された。その中で、特に優れ

た取り組みを展開する中小企業上位500社には「ブライイト500」(大企業はホワイト500)の冠を付加して選出した。中部地区の鉄鋼・非鉄関連企業からは仮設足場施工の鉞組(岐阜県高山市、社長・鉞勇貴氏)や橋梁補修のヤマダイインフラテ

クノス(愛知県東海市、社長・山田博文氏)などが認定された。鉞組ではコロナ禍に各自の健康管理が強く求められたことや、大学が学生に職業選択をアドバイスする際、「健康経営優良法人」に注目することも一手

のの仕事は職人自身が健康でなければ成り立たない仕事(鉞社長)と健康経営に取り組み始めた。22年に「健康優良法人」の初認定を受けたが、一度(23年)選から漏れた。これを機に

取組みを加速させる。運動不足解消の一環として、社内ウォーキングラリー大会を実施。部署の垣根を越えたチームを編成し、一定期間の増加率を競つ

## 健康経営優良法人ブライイト500に選出

### 独自取り組みが高評価

クノス(愛知県東海市、社長・山田博文氏)などが認定された。年度(25年4月)には将来の病

鉞組ではコロナ禍に各自の健康リスクを可視化する、未病診断(ボディレポート)を全員が受診。専門の診断士のアドバ

イスを受け、半年後の改善率を競つ社内イベントも実施した。

とアドバイスしていることを知同社が経営するシムの優待利用

って以降、2021年より「我制度を新たに設けたほか、成績

優秀者には会社が表彰する後押しもあり自律的に健康管理に取り組み社員が増加。25年より2年連続で、ブライイト500に輝

いた。ヤマダイインフラテクノスは全

国で橋梁補修を手掛けるだけに、現場技術者の出張機会が多い。出張先での社員の食事に偏りがあことに気が付いた会社

が、社員の健康維持の課題を認識。「従業員は家族と同様に、

大切に考えている」(同社担当者)と約2年前より、健康経営

取り組みが奏功し、「健康管理に無

関心だった社員も、確実に一歩

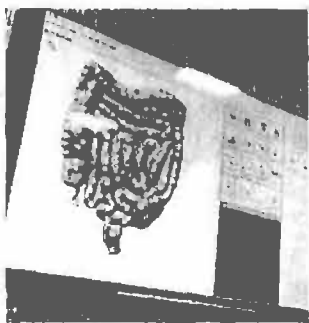
踏み出せている」(同)。今年度も社員のやる気を引き出す新

な企画を準備中だ。

両社ともに社員の健康改善は

もちろんのこと、社内コミュニケーションの活性化や生産性向上などの効果を得ている。「健康経営」は会社と社員が一体

なった戦略的な取り組みが、社内の健康風土を醸成させているといえそうだ。



鉞組では心身のバランス状態を分析する



ヤマダイインフラテクノスが取り組む「立位体前屈ラリー」の社内チラシ